会 議 録

- 1 会議の名称 第5回 富士川町総合計画審議会
 - 2 会議日時 令和7年1月8日(水) 19時00分から21時00分まで
 - 3 開催場所 富士川町役場 1階 101・102・103会議室
 - 4 出席者数 (1)委員 総合計画審議会委員 出席20名 欠席5名
(2)執行機関 政策秘書課 5名
 - 5 議題 (1)総合計画・総合戦略・人口ビジョンの素案について
(2)諮問に対する答申について
(3)パブリックコメントの実施について
(4)その他
- 6 発言の内容

会長あいさつ

【会長】

皆さん、改めましてこんばんは。お忙しい中、第5回総合計画審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

昨年2月と7月に町内15ヶ所でワークショップを開催しまして、各地区の町民の考えをお伺いしたところでございます。

これまでの懇談会方式と違いまして、ワークショップという会場にいる参加者全員が意見を述べるという方式になり、多くの人から意見を聞いて理解するという非常に有効な会議だったというように思っております。

各地区から様々な意見や提言をいただき、その内容は幅広いものとなりました。それらを基に、事務局で新しいまちづくりを基本とする総合計画の基本構想・基本計画・総合戦略そして人口ビジョンという四つの案を取りまとめていただきました。

今日お手元にお配りしてある資料でございます。今日は最終的な取りまとめに向けて、これらの案について委員の皆さんからご意見を賜りたいというふうに考えております。この審議が新しいまちづくり計画に幅広く反映できますよう、本日はどうぞよろしく願いいたします。

(1)総合計画・総合戦略・人口ビジョンの素案について

総合計画・総合戦略について

【事務局説明】

- ・第3次総合計画は令和7年度から16年度までの10年間の計画。
- ・バックキャストイング手法を用い、目標から逆算して施策を検討。
- ・住民アンケートやワークショップなどで町民の意見を広く聴取。
- ・人口減少対策、デジタル化推進、防災対策強化などが重要課題。
- ・6つの基本目標と25の施策分野を設定。
- ・SDGsやデジタル田園都市構想の視点も盛り込む。
- ・各施策に数値目標を設定し、PDCAサイクルで進捗管理。
- ・人口減少を見据えつつ、持続可能なまちづくりを目指す。

【委員】 計画期間について第2次計画が8年だったのに対し、第3次計画が10年になった理由は何か。

【事務局】 総合戦略の期間(5年)に合わせるため。

【委員】 ウェルビーイングについて触れているか。

【事務局】 SDGsは計画に取り入れているが、ウェルビーイングは総合戦略に少し触れる程度。

【委員】 基本計画と各課の事業との関係は。

【事務局】 総合計画が町の最上位計画となり、各課の事業はこれに基づいて行われる。

【委員】 人口減少対策についてどのように考えているか。

【事務局】

- ・現実的な推計を基に、人口減少を緩やかにする政策を展開。
- ・子育て支援や移住政策などを充実させる。
- ・広域連携や国への働きかけも視野に入れる。

【委員】 企業誘致の目標設定について現状では単純な誘致数を目標としているが、分母（アプローチ数など）を設定することで、より具体的な行動計画になる可能性があるのではないか。

町の特性を活かした誘致戦略や、企業誘致のための環境整備（用地確保など）も重要だと思う。

人口ビジョンについて

【事務局説明】

<日本全体の人口動向>

現在約1億1000万人の人口が、95年後には約5000万人に減少する見込み。

<富士川町の人口推移>

昭和55年の1万8815人から、令和2年には約4000人減少。

<将来人口推計>

国立社会保障人口問題研究所の推計では、2060年に富士川町の人口は6854人まで減少する見込み。

<町の目標>

人口問題研究所の推計を上回る7000人超を目指す。

20歳から34歳の若年層の社会減をゼロにすることを目標とする。

<対策>

子育て支援、移住定住促進、地域の魅力向上、企業誘致などの政策を通じて人口減少を緩やかにする。

<現実的な目標設定>

以前の目標（1万6000人の維持）は現実的ではないと判断。

日本全体の人口減少傾向を踏まえつつ、できる限りの対策を講じる方針。

<人口ビジョンの対象期間>

35年後（2060年頃）までを見据えた計画。

人口ビジョンは、厳しい人口減少の現実を直視しつつ、可能な限りの対策を講じて減少を緩和し、特に若年層の流出を防ぐことに重点を置いている。

【委員】 封鎖人口の説明を。

【事務局】 封鎖人口とは、ある時点での人口構成がそのまま維持され、転入・転出がない状態で推移した場合の将来人口推計。富士川町の場合、封鎖人口と比較して実際の推計人口が低いことから、転出超過の傾向がある。

【委員】 鯉沢口駅前から街中へ直接行ける道路の計画はありますか？

【事務局】 現在、富士川に新たな橋を架ける計画はない。国と県の方針では、当面これ以上の橋の整備は考えられていない。

【委員】 意見：学校へ自転車で通れるくらいの道路が一つでもあれば便利だと思う。

【委員】 峡南地域は県内でも人口減少が進んでいる。近隣の町（身延町、南部町など）の総合計画を参考にしているか？他町の事例（例：南部町の倉庫誘致、身延町の工業地帯）を取り入れる余地はあるか？

【事務局】 他の町の総合計画も参考にしている。特に同じ委託業者を使っている市町村からは情報を得ている。

【委員】 計画の中で主となる柱（企業誘致、商業振興、子育て支援など）を明確にすべきではないか？

【事務局】

- ・道の駅周辺を活用したまちづくりが中心
- ・富士川リバーサイドパーク構想の推進
- ・道の駅から町中心部への人の流れを作る
- ・子育て政策を通じた人口減少対策は、山梨県内の多くの自治体で共通している

(2) 諮問に対する答申

【事務局説明】

今回も前回と同様の形式で答申を行う予定。1月17日に町長へ答申を予定。

本来なら1-2ヶ月前に資料を配布し、十分な審議時間を設けるべきだった。当日の資料配布となってしまったことへの謝罪。

計画に対する意見や修正提案がある場合、意見書に記入し提出。QRコードを使用したWebフォームでの回答も可能。

【会長】 膨大な資料を短期間で検討するのは困難だが可能な限り多くの意見を提出するよう委員へ要請。

(3) パブリックコメントについて

【委員】 審議会委員の意見とパブリックコメントの意見はどのように反映されるか？

【事務局】

- ・1月9日にパブリックコメントの予告を掲載
- ・1月17日の答申後にホームページに計画案を掲載
- ・2月17日までのパブリックコメントで変更が必要な場合は修正
- ・修正後の計画案を委員に配付して確認
- ・すべての修正を反映した後、3月議会に上程

【委員】 パブリックコメントの活用方法は

【事務局】 寄せられた意見を検討し、必要に応じて計画を修正

【委員】 修正後の計画を審議会で確認するのか。

【事務局】 審議会を開催せず、修正版を委員に配付して確認を依頼。

(4) その他

特になし